

「奈良のジジが事故にあったみたい。」

と、学校から帰って来た私に、お母さんが教えてくれました。私は突然の事でビックリして、すぐに

「えっ？なんで？」

と聞き返したら、お母さんが詳しく教えてくれました。

右折レーンで信号待ちのために停止していたジジの車に、直進レーンにいた大型トラックが後方からつつこんできて、そのしよげきで反対車線に追いやられて、反対車線で停止していた車にしようとなつたとの事でした。

その後、救急車で病院に運ばれました。色々な検査をした結果、けいずいそんしようで四番目のけいついの神経が細くなったのが原因で、むねから下がまひしているのが判明しました。ジジはそのまま三週間検査入院した後にリハビリセンターに転院して六カ月リハビリをしました。

リハビリセンターではまず足や手を動かすリハビリから始まり、その次はおはしサポーターを持つ練習、物につかまって立つ練習をしました。それが出来る様になると、おはしサポーターを使ってあずきを右から左へ移動させる練習や、歩行器・杖を使って歩く練習になりました。やっと電話が出来るまでに回復した時、

「ジジ、子供に逆戻りや。」

と、笑いながら言っていました。声を聞くといつも笑顔のジジの顔が浮かび少し安心しました。

感覚が無いので、動かしてる部分に集中しないとお箸を持つことも、歩くことも上手く出来ません。自分の体を支えるために、十キロもやせました。自分の思い通りにならない体を嫌になる時や、毎日つらいリハビリをしても全然良くなるなくて、悔しい思いをする時も沢山あったけれど、それでも十二月にあるお父さんの妹の結婚式でバージロードと一緒に歩きたい夢があったからあきらめずにたくさんの努力を毎日続けました。

努力を続けた結果、退院した時には杖を持って一人で歩いたり、一人で風呂に入れる様になっていて、リハビリの先生もすごい回復力だとおどろいていました。

そして、ねん願だったバージロードも無事に歩けました。杖を持っていたけど、少しずつだけど、一歩ずつしっかりと自分の足で歩いてるジジを見てとても感動しました。

いっしゅんの交通事故でジジの生活は変わってしまい、たく山の事をあきらめなければならなくなりました。仕事も出来なくなり、お米も作れなくなり、あゆ釣りも出来ず、大好きなドライブで私たちに会いに来れなくなりました。

ちゃんと右折レーンに入って、赤信号で停止して、シートベルトもして、きちんと交通ルールを守っていたにも関わらず、けいたい電話を触っていたわきみ運転のトラックのせいで人生が変わってしまいました。

「起きてしまったものは、仕方がない。」

と、ジジは自分に言い聞かせるかの様に私達に言ってきました。

今回のジジの事故で感じたことは、被害者のジジだけでなくジジの周りの家族の生活も変わってしまったという事、ジジと同じくらい悲しくて悔しい思いをする家族がいるという事です。身近で見えてきた私は、交通ルールを守るという事は自分の命を守るためだけではなく、家族の笑顔を守るため、そして悲しい思いをする人を増やさないためだと思います。

四年生になり保護者がいなくても公道で自転車を乗れるようになりました。必ずヘルメットを被ります。スピードも出しすぎません。運転に集中して乗っています。自分自身と家族の笑顔を守るために、自分自身が交通ルールをしっかり守りたいと思います。